

芝川小だより

6月 第3号

さいたま市立芝川小学校
令和7年5月30日
TEL 048(644)7544



傍観者からアクションする人へ

6月になり、心地よい風とともに新しい季節を感じる頃となりました。

さて、始業式や入学式の際、子どもたちに話したことの1つ目は「一生懸命がんばること」でした。そして先月のお話朝会や学校だよりで『努力のつば』の話を紹介しました。今月は、2つ目の「誰かの心や体を傷つけることはしない」について、お話ししたいと思います。

皆さんは「ピンクシャツデー」という日をご存じでしょうか？ピンクシャツデーは、カナダの高校生がはじめた「いじめ反対」運動です。

2007年、カナダ・ノバスコシア州———

中学3年の男子が、ピンク色のポロシャツを着て登校したことを発端に、性的なからかいや暴行などのいじめにあいました。それを知った高校3年生の男子2人が、「いじめは許せない」と、ピンク色のシャツを買い集め、学校のネット掲示板やメールを通じて、「明日、みんなでピンクのシャツを着よう!」と呼びかけました。

翌朝、大量のシャツをもって学校に行き、校門で配りはじめようとした2人の目に映った光景・・・それはピンクシャツを着た生徒たちが次々と登校してくる姿でした。ピンクシャツが用意できなかった生徒たちは、リストバンドやリボンなど、ピンク色の小物を身につけて登校してきました。頭から爪先まで、全身にピンク色をまとった生徒もいました。

2人が呼びかけた人数より遥か多く、数百人もの生徒たちがピンクシャツやピンク色のものを身につけ登校してきたことで、その日、学校中がピンク色に染まりました。いじめられた生徒は、ピンク色を身につけた生徒たちであふれる学校の様子を見て、肩の荷がおりたような安堵の表情を浮かべていたそうです。以来、その学校でのいじめは自然になくなったといえます。

いじめに対して、学生たちは言葉や暴力ではなく行動で意思表示をしようと立ち上がりました。この行動はたちまち広まり、世界中の人々がいじめをなくすために声を上げるきっかけとなったのです。現在、カナダでは毎年2月最終水曜を「ピンクシャツデー」とし、多くの賛同者がピンクシャツを着て「いじめ反対」のメッセージを発信しています。いじめが起きたとき、そこに傍観者をつくらない、そして自らも傍観者にならない。「味方がいる」「仲間がいる」「一人じゃない」。賛同者の存在が、今どこかで悩んでいる誰かの支えになれることを願って。

6月は、「いじめ撲滅強化月間」です。「いじめは絶対にいけない」と分かっている。傍観者からアクションする人へ。少しの勇気と強さについて改めて考える一か月にしたいと思います。今月もどうぞよろしくお願いいたします。

